

れに制癌剤を使うとよいといわれたが、組織に両者の適応がちがうというのは本当か。

2. 縦隔リンパ節へのRIのとりこみで転移の有無をみることは誰でも考えつくことであるが、むずかしい。シンチグラムをみせてもらいたい。

(答) 久留米大 猪口喜三

1. 組織型によって使い分けるとはっていない。唯腺癌はCa. epidermoides程に照射療法が期待できないと考えている。

2. ^{198}Au のリンパ節とり込み率を剔出リンパ節を材料として調査し、制癌剤の到達のindicatorとしている。シンチグラムももちろん行なっている。

15. 最近経験した肺癌切除術中の偶発症

長崎大 富田正雄・中村 讓
葉玉哲生・綾部公愨・辻 浩一
江本 勲・辻 泰邦

肺癌手術の特異性は高齢者に対する開胸術の手術侵襲の把握と腫瘍担癌体である特長を考慮することにある。腫瘍担癌体であるため、腫瘍組織が動脈血栓症をきたすことがある。現在まで11例が報告されているが手術が要因となったものは7例でその予後は不良である。そのため、肺静脈結紮を先行するretrograde pulmonary resection施行するのが原則となっている。

一方、腫瘍組織が気管支腔内に逸脱し、他側肺気管支が閉塞した

症例の報告はみられない。今回は腫瘍組織が気管支腔内に逸脱し、他側肺気管支を閉塞した症例を経験したが、本偶発症に対処するためには、早期にかつ、的確な方法による呼吸改善にある。そのため腫瘍組織を摘出する方法として吸気圧によるsuckingされimpactの状態にあることを念頭におき、両側開胸を躊躇することなく、早急に摘除することが肝要であることを強調する。

16. 癌性胸膜炎の胸腔内注入療法

長崎大 籠手田恒敏・松本武典
吉村 康・中野正心・原 耕平
癌性胸膜炎は、肺癌の病期分類では第4期すなわち末期像でありその治療は非常に困難を感じさせる。これに対し、我々は胸腔内注入療法を行ない、以下のごとき結果を得た。

対象は当教室に入院し確診のついた原発性肺癌のうちすでに入院時に胸水の認められた26例である。年齢は36才より72才にわたり、病理組織別に見ると腺癌17例、扁平上皮癌5例、未分化癌4例である。治療はMitomycin C 4mgとDexamethazone 5mgを週2回の割合で胸腔内注入したものの16例、抗癌剤静注を行なったものの5例、種々の理由にて抗癌剤の投与を行なわなかったものの5例である。治療成績は胸腔内注入例では、胸水の消失1例、減少8例、また細胞診上の改善をみたものの8例であった。抗癌

剤静注例および無治療例では、小細胞性未分化癌の各1例に効果を認めただが他は全て無効であった。以上胸腔内注入療法の有効性を報告したが、副作用はほとんど認められず今後、試みるべき方法と思われる。

(質問) 鹿児島大 篠原慎治

Mitomycinとステロイドを胸腔内投与されているが、ステロイド使用の根拠は。

(答) 長崎大 籠手田恒敏

ステロイドは抗滲出作用を期待したもの。MMCのみ胸腔内に注入した例はない。

(質問) 小倉記念病院

松岡順之介

ステロイドのみの胸腔内注入で効果があるか。静脈内投与との効果の比較は。

(答) 長崎大 籠手田恒敏

ステロイドのみの例はありません。

(追加) 長崎大 吉村 康
演者の回答に追加。

ステロイドの抗線維化作用、抗滲出作用、抗炎症作用も期待している。関節腔内にステロイドを注入すると同じ理由である。

我々としては、胸膜の癌組織を直接たたき、胸水を減少せしめるものであって、胸膜が肥厚すると治療の障害になる。

17. 癌性胸膜炎の治療における胸腔内タルク末注入法 (Talc powder) について